

年次報告



第3203地区（インド）の80以上のクラブが、バヴァニ川沿いに健全な生態系を作り出すことを目指す長期プロジェクトを支援しています。工場や自治体、農業による長年の汚染は、この地域の水供給と自然に悪影響を及ぼしています。

会員たちは、環境の持続可能性のためのロータリー行動グループ、インド水資源省、世界自然保護基金（WWF）、インド政府と協力して、ケーララ州とタミル・ナードゥ州でゴミ清掃、水質検査、地域調査を実施しました。



環境の持続可能性のためのロータリー行動グループは、環境の持続可能性と気候変動に関する啓発、温室効果ガス排出量削減を目指す奉仕プロジェクトを地区が立案、実施、評価できるよう支援しています。



2023-24年度国際ロータリー理事会

会長

ゴードン R. マッキナリー (スコットランド)

会長エレクト

ステファニー A. アーチック (米国)

副会長

パトリシア・メリーウェザー-アルジェス (米国)

財務長

ドリュー・ケスラー (米国)

理事

アントニオ・エンリケ・バルボサ・デ・
ヴァスコンセロス (ブラジル)
アルベルト・チェッキーニ (イタリア)
ギム・ボク・チュウ (シンガポール)
パトリック・ダニエル・チサンガ (ザンビア)
イブ・コンウェイ-ガジ (英国)
ダニエル C. ヒメルスバック (米国)
ジェレミー・ハースト (ケイマン諸島)
ハンス-ヘルマン・カステン (ドイツ)
ムハンマド・ファイーズ・キドワイ (パキスタン)
レナ J. マイアスコーク (ノルウェー)
アニルダ・ロイ・チョウドリー (インド)
佐藤芳郎 (日本)
ベス・スタップス (米国)
T.N. ラジュ・スブラマニアン (インド)
ヨン・ホ・ユン (韓国)

事務総長

ジョン・ヒューコ (ウクライナ)

2023-24年度ロータリー財団管理委員会

管理委員長

バリー・ラシン (バハマ)

管理委員長エレクト

マーク・ダニエル・マローニー (米国)

副管理委員長

バラート S. パンディア (インド)

管理委員

マーサ・ピーク・ヘルマン (米国)
チュン-ウック・ヒャン (韓国)
ジェニファー・ジョーンズ (カナダ)
ホルガー・クナーク (ドイツ)
シュウ・ミン・リン (台湾)
ラリー A. ランスフォード (米国)
ギータ K. マネク (ケニア)
アジズ・メモン (パキスタン)
三木 明 (日本)
グレッグ E. ポッド (米国)
カルロス・サンドバル・デルガド (メキシコ)
デニス J. ショア (オーストラリア)

事務総長

ジョン・ヒューコ (ウクライナ)

ロータリーのリーダー



2023年7月から2024年6月までの12カ月は、非常に特別な1年となりました。ロータリーは世界的な課題に直面し、会員や人びとをサポートするという重要な活動に取り組み、ファンドレイジングの野心的な目標を掲げました。

さまざまな課題によって思わぬ展開や驚きもありましたが、私たちはロータリーがいつもそうしているように、より明るい未来に目を据え、団結と強さをもって1年を終えました。

「世界に希望を生み出そう」というテーマにあるように、会員や人びとのメンタルヘルスとウェルビーイングに取り組むという有意義な呼びかけも行いました。ロータリー会員は、素晴らしい方法でこれに応えてくださいました。メンタルヘルスケアへのアクセス改善に取り組み、メンタルヘルスのニーズに関する意識を高め、メンタルヘルスについて話すことへの偏見と闘う数十ものプロジェクトが世界各地で実施されました。この分野を支援する新しいクラブが結成され、この取り組みを今後も継続するために多くの人がメンタルヘルス・イニシアチブのロータリー行動グループに入会しました。

また、世界からポリオを根絶することにも力を注ぎました。ロータリー会員は、ビル&メリンダ・ゲイツ財団からの2倍額の上乗せを最大限にするために、5,000万米ドル以上の寄付を集めることに再び成功し、世界の子どもたちへの約束を守りました。また、第4回大規模プログラム補助金の受領プログラムを発表したほか、アフリカの4カ国で多くの子どもを死に至らしめている疾患と闘うための3,000万米ドルの新しい「ロ

ータリー健康な地域社会チャレンジ」の開始も発表しました。

こうしたプログラムと重点分野における取り組みを支援するため、ロータリー財団へのご寄付と誓約は4億1,700万米ドルを上回りました。皆さまの弛まぬご支援に感謝いたします。

ロータリーはこの1年を健全な財務で締めくくり、世界でよいことをするための力強い財源を維持できました。ロータリーの活動はRI会長やロータリー財団管理委員長によってではなく、世界のすべての会員によって行われるものであることを、私たちは知っています。この年度に皆さまが成し遂げてくださったことに、心より御礼申し上げます。

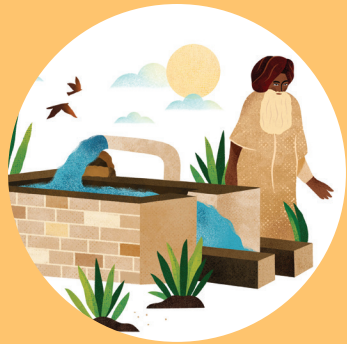
皆さまからのご支援のおかげで、ロータリーは激動の時代に平和を築き、急速に変化する世界を懸命に生き抜こうとしている人びとに希望をもたらすことができます。

心を込めて

ゴードン R. マッキナリー
2023-24年度国際ロータリー会長

バリー・ラシン
2023-24年度ロータリー財団管理委員長

1年を振り返って



持続可能な農業と水管理の実践を通じてインドの4州で6万人以上の農民の生活を改善する「Partners for Water Access and Better Harvests in India (インドにおける水へのアクセスとより良い収穫のためのパートナー)」に、200万米ドルの大規模プログラム補助金が授与されました。



ゲイツ財団およびワールドビジョンとの協力の下、コンゴ民主共和国、モザンビーク、ナイジェリア、ザンビアで保健システムを強化し、小児疾患と闘うための3,000万米ドルのプログラム「ロータリー健康な地域社会チャレンジ」が開始されました。このプログラムは、大規模プログラム補助金の第1回受領プログラムである「Partners for a Malaria-Free Zambia (マラリアのないザンビアのためのパートナー)」の成功を土台としています。



中東と北アフリカの平和構築者が同地域での平和の推進に必要なスキルと戦略を学ぶことを目的に、イスタンブール（トルコ）のバーチェシェヒル大学に新しいロータリー平和センターが開設されました。



ロータリークラブとローターアクトクラブが地元の淡水の生態系を守り、回復し、維持することを奨励するため、国連環境計画（UNEP）とのパートナーシップの下、「淡水保全のためのコミュニティアクション」イニシアチブが開始されました。



インドを含む世界保健機関（WHO）東南アジア地域が、ポリオフリーの認定から10周年を迎えました。残されたポリオ常在国はアフガニスタンとパキスタンのみです。

この年度の数々の達成は、ロータリーの行動計画を支えています。この行動計画は、進化するこの世界で「持続可能な良い変化を生むために、人びとが手を取り合って行動する」というビジョンを実現するための、包括的で長期的な戦略です。

ロータリーがより強くなるために、私たちは「より大きなインパクトをもたらす」、「参加者の基盤を広げる」、「参加者の積極的なかわりを促す」、「適応力を高める」の四つの優先事項に焦点を当てています。

詳しくはrotary.org/actionplanをご覧ください。

ロータリー行動計画



変化をもたらす 太鼓の音色

残されたポリオ常在国であるアフガニスタンとパキスタンでは、本格的な予防接種の取り組みが続いています。両国ともに課題を抱えており、革新的な戦略が必要とされています。

例えば、パキスタンでは一部の人びとが常に移動しているため、予防接種を行き届かせるのが困難となっています。また、情報の過多や誤情報により、子どもへの予防接種を拒否する親もいます。

こうした状況を受け、ポリオ予防接種チームによってラワルピンディーの町で新しいアプ



ポリオに関する事実

■
2023年に報告されたポリオ症例：12件

■
ロータリーとポリオ根絶のパートナー団体の支援により2023年にポリオ予防接種を受けた子ども：4億人以上

■
世界でポリオだけでなく予防接種をまったく受けたことのない子ども：1,450万人

■
ポリオ根絶のためにロータリー会員が集めた資金：5,000万米ドル

2024年7月1日現在



ローチが試みられています。男性が太鼓を叩きながらおなじみの曲を演奏して町を歩き、家族たちの目を引くというものです。この男性は、今後予定されているポリオ予防接種キャンペーンへの参加を呼びかけるバナーを身にまとっています。毎週この場所で太鼓を叩くことで、文化伝統を通じて予防接種への抵抗を和らげ、町の人びとの信頼を築いています。

そのおかげで、ラワルピンディーとラホール
の町で多くの子どもが予防接種を受け、
パンジャブ州の予防接種率は96%に達しました。■



パキスタンのラワルピンディーで実施されるポリオ予防接種キャンペーンへの関心を高めるために伝統的な太鼓が使用されています。

耳を傾ける方法は一つではない

聴覚の障がいにより手話を使用している人は、世界に7千万人以上います。こうした人たちは、耳が聞こえる人のために作られた社会の中で、コミュニケーションと情報アクセスの障壁に直面することが少なくありません。

コロンビアでは、ボゴタ・センテナリオ・ロータリークラブとグローバル・ジパキラ・ロータリークラブが、ろう者コミュニティの若者を対象としたロータリー青少年指導者養成（RYLA）イベントを開催。インクルーシブなリーダー育成の機会を提供し、すべての人を歓迎する環境を作りました。

クラブは、地元のろう者スポーツ連盟などと協力して、ロータリアンとRYLA参加者の間のコミュニケーションを促しました。参加者は、同じ言語を話さない人とのコミュニケーションや、障がい者にとってよりインクルー

シブな環境づくりの方法などを話し合いました。多くのろう者が直面する障壁をよりよく理解するため、ロータリー会員は通訳者の助けを借りて手話を使い、リーダーシップ養成のアクティビティを援助しました。

RYLAでは、若者がリーダーシップスキルを身につけながら、楽しみ、新しい友人をつくることができます。このRYLAに参加した若者たちは、自分たちのニーズを満たす環境の中で、その機会を持つことができました。主催した会員たちも、ロータリー内外でよりインクルーシブになることへの理解とモチベーションを高めました。■



参加者たちは、聴覚障がい者とのコミュニケーションに役立つ手話をロータリー会員に教えました。

ご存知ですか？

■ **地区RYLAに参加した若者の数：約50,000人**

■ **各RYLAイベントの平均参加者数：100人**

■ **RYLAに関与したロータリー会員のうち、これが会員にとっても貴重な体験であると述べた会員の割合：98%**

2024年7月1日現在

不安やうつを軽減

インドではメンタルヘルスの問題に対する若者の意識が低く、そのような問題のためにサポートを求めることへの偏見があります。このため、不安やうつ病の理解と治療がしばしば妨げられています。

ナグプール・ロータリークラブ（インド）のリタ・アガワルさんは、この現状を変えたいと思いました。心理学者として35年の経験を持つ彼女は、メンタルヘルスへの認識不足のために治療を受けないことが、個人的・社会的な代償につながることを知っています。

アガワルさんは、メンタルヘルス・イニシアチブのロータリー行動グループが開発した「Wellness in a Box」と呼ばれるメンタルヘルス認識向上カリキュラムを活用して、14歳の子どもにうつ病について教え、偏見を取り除き、成果が実証された対処方法を提供するプログラムを開始しました。

また、教師がカウンセリングスキルを学ぶ機会も設けられました。ネイプルス・ロータリークラブ（米国）が協同提唱したロータリー財団グローバル補助金では、スクールカウンセラーと教員向けの認定プログラムを立ち上げ、五つの学校でフルタイムのカウンセラーを雇いました。

このプロジェクトは、参加者と地域社会に大きな成果をもたらしました。生徒、保護者、教師は、うつ病に関する知識を身につけたことで、援助を求めることへの抵抗やうつ



病に対する否定的な態度が少なくなったと報告しています。プロジェクトでは、カリキュラムを使って2,280人の生徒と768人の親・教師に研修を行ったほか、100人の若者がボランティアのピアメンターとして研修に協力しています。

認定プログラムを修了した教員たちは、ほかの教員や管理者400人以上を対象に、学校でのカウンセリングやメンタルヘルスの重要性についてセミナーを実施しています。現在、ナグプールのほかの多くの学校も、Wellness in a Boxの採用に関心を示しています。■

アガワルさんは、2024年1月に世界を変える行動人：インパクトの推進者として選ばれた6人のうちの1人です。この表彰は、長期的な好ましいインパクトを実現したプロジェクトを成功させた会員を称えるものです。

クラブを越えて参加する機会

■ **112のロータリー親睦活動グループ：同じ情熱や職業をもつ参加者同士がつながり、奉仕することを目的として活動**

■ **25のロータリー行動グループ：共通の専門知識・スキルを生かして好ましい変化をもたらす**

■ **13,483のロータリー地域社会共同隊：地域社会のニーズに応えるために、ロータリー会員とそれ以外の人たちが協力して活動**

2024年7月1日現在

寄付者の声



フェドル・ルバット S. ウリオステさん、
マリア・クリスティナ・ウリオステさん
(ペルー)

アーチ・克蘭フ・ソサエティ (管理委員会サークル)、
レガシー・ソサエティ

1960年代、フェドルさんとマリアさんにはロータリアンの友人が数人いました。これらの若い友人たちが所属するクラブは地元でとても尊敬されていましたが、フェドルさんが注目したのは、会員がロータリーや仲間を大切に、地域社会への奉仕に力を注いでいることでした。「年齢を問わず、全会員がボランティア活動と親睦を楽しんでいました」。その仲間になりたいと思ったお二人は、入会し、以来ずっと会員として活動しています。

現在は教育に情熱を注いでいます。「質の高い教育を受けることで、貧困の連鎖を断ち切ることができると思います」とマリアさん。「ロータリー財団への私たちの遺贈は、クラブが地域の学生に奨学金を提供できるよう支援するものです」

フェドルさんもこう述べます。「私たちの遺贈は荒れた海の一滴の水にすぎないかもしれませんが、それをしなければ、この世界に私たちが存在する意味がありません」



神野正博・厚美 (日本)

アーチ・克蘭フ・ソサエティ
(管理委員会サークル)

2011年3月11日の東日本大震災後にロータリー会員がもたらした影響を目の当たりにした神野正博さんは、七尾ロータリークラブの2011-12年度会長として、米国と福島クラブと共に財団グローバル補助金を利用して被災地の小学校に空気清浄機や教材を寄付しました。「このプロジェクトを通してロータリー財団の底力を知りました」と神野さんは話します。

ご自身の住む能登半島で2024年に大地震があったときにも、迅速に行動を起こしました。全世界のロータリー会員からの支援に感謝した神野さんは、疾病予防と治療プロジェクトを支援するための冠名基金を設立しました。

「ポリオ根絶や大規模プログラムとしてのマラリア対策など、疾病予防は衛生状態の改善なくしてあり得ないことです。基金として、未永く、次の世代のロータリアンが生き生きと活動するための原資としていただきたいと思います」



インドラニ・パトナイクさん、
D.R. パトナイクさん (インド)

アーチ・克蘭フ・ソサエティ
(管理委員会サークル)

D.R.さんは、同じ志をもつ人たちとつながり、地域に奉仕するためにロータリーに入会しました。ロータリー財団への寄付はその延長線上にあります。「私たちは世界でよいことをしたいと願っています。財団のおかげで、持続可能な変化をもたらすグローバルな取り組みを支援できます」

D.R.さんとインドラニさんがロータリー財団を支援するのは、ポリオの感染抑止と根絶において財団が重要な役割を果たしていると信じているからです。「崇高な大義のために無私無欲で取り組んでいるロータリーは、特別な存在」と話すお二人は、教育、医療、環境の持続可能性にも情熱を注ぎ、地元病院での透析プロジェクトや学校での水・衛生インフラの改善プログラムを支援しています。

「ロータリー会員が人びとに奉仕し、より良い世界を築く有意義なプロジェクトを実施するために、私たちの寄付が役立つことを願っています」



ダニエル O. ジョラーンスタッド、
ロバート E. ハートマン (米国)

アーチ・克蘭フ・ソサエティ (財団サークル)、
遺贈友の会 (レベル5)

ロータリーに入会したジョラーンスタッドさんとハートマンさんは、国際的なプロジェクトに参加したことで奉仕への情熱がさらに高まりました。「ペルーでボランティアをしたとき、口唇口蓋裂の手術が人びとの人生を変えるほどの影響を与えているのを目にしました。あのときのことは忘れられません」とジョラーンスタッドさん。ハートマンさんも、「インドでのEnd Polio Nowキャンペーンでポリオワクチンの投与活動に参加したのは、とても意義のある体験でした」と加えます。

こうした経験は、ロータリーの使命に対する二人の信念を裏付け、財団を支援する動機となりました。サンフランシスコ・ロータリークラブ (米国) の2024-25年度会長であるジョラーンスタッドさんは、次のように語ります。「永続的なインパクトを生み出す財団の力を信じています。私たちの寄付は、世界的なイニシアチブと地域社会の両方を前進させ、大きな変化をもたらすために効果的に活用されると確信しています」

犬たちへの 愛のために

動物保護施設「Yugigyeon Soop」（「捨て犬たちの森」の意）は、大型犬を専門としています。韓国では多くの人がアパートやマンションに住んでおり、大型犬を飼うことが難しくなっています。この地域の動物保護施設で保護されている大型犬（15Kg以上）の約40%が安楽死の道をたどりますが、Yugigyeon Soopには大型犬が生きるチャンスがあります。

韓国のMZロータリーEクラブ（現在はイチョン・イイオム・ロータリークラブ）の会員たちは、施設の清掃、布団の交換、物資の寄付などの定期的な支援活動を行っています。ただし、一番大切なのは犬と過ごす時間です。犬たちと遊びながら、スキンシップと愛情を与えています。

クラブは、このような実践的なボランティア活動の機会をつくることで、より多くの若者がロータリーに入会することを願っています。■

数字で見る会員組織

■ 全世界のロータリークラブ／ロータリーアクトクラブの会員数：120万人（クラブ数：45,257）

■ ロータリーアクト数が最も多い国：インド（28,042人）

■ ロータリアン数が最も多い国：米国（266,699人）

■ 2023-24年度に入会したロータリアン：146,913名（うち37%が女性、14%が40～49歳）

2024年7月1日現在



クラブ会員たちは定期的に動物保護施設を訪れ、犬と遊んだり、訓練を行ったりしています。また、施設の掃除や食料・毛布・医薬品を寄付するための募金活動も行っています。

初めての 呼吸のために



新生児仮死（出産時に新生児が呼吸していないこと）により、世界で毎年推定90万人の新生児が亡くなっています。低・中所得国では新生児死亡の主因となっていますが、多くの場合、ヘルスケアワーカーが迅速な蘇生措置を行うことで、無呼吸の新生児の命を救うことができます。

2010年、ロータリー会員は、救命ケアの方法を医療従事者に教える「Helping Babies Breathe」（「赤ちゃんの呼吸を助

ける」）研修プログラムの開発において、米小児科学会に協力しました。

2022年以来、ロータリー財団グローバル補助金プロジェクトでシエラレオネと北米のロータリー会員が協力し、このカリキュラムを用いて看護師や助産師などシエラレオネ全国の650人のヘルスケアワーカーに研修を行っています。

フリータウン・ロータリークラブ（シエラレオネ）とパームハーバー・ロータリークラブ（米

補助金の概要

■
授与されたグローバル補助金：
1,287件（総額
8,200万米ドル）

■
支給された地区補助金：485件（総額
3,100万米ドル）

■
承認された災害救援補助金：106件
（総額400万米
ドル）

■
授与された大規模プログラム補助金：
1件（総額200万米
ドル）

2024年7月1日現在



国）が提唱したこのプログラムでは、蘇生テクニックを正しく使ったときにだけ胸が上がる仕組みの新生児蘇生シミュレーション人形を使っています。人形に付いたへその緒で脈拍を確認できるほか、ゴム球バルブを使って人形に呼吸をさせたり、泣かせたりできます。

ロータリー会員は、160体のシミュレーション人形に加え、生酸素濃縮器5台と太陽光発電システムをフリータウンの産科病院のために購入しました。

持続可能性を重視するこのプロジェクトでは、研修の修了生たちがスキルをほかのヘルスケアワーカーに教え、現場での指導を行えるようにしています。さらに、この研修を今後も続けていくためにシエラレオネ保健省および非政府団体Health Care Sierra Leone USAとパートナーシップを組んでいます。■

研修生たちは、新生児蘇生のシミュレーション人形を使い、出生時に無呼吸の赤ちゃんを蘇生させる方法を学びます。

グローバル補助金の概要（重点分野別）

■
平和構築と紛争予防に関する補助金：
57件（2,615,535米
ドル）

■
疾病予防と治療に関する補助金：620件
（40,786,468米
ドル）

■
水と衛生に関する補助金：191件
（13,137,581米
ドル）

■
母子の健康に関する補助金：102件
（6,235,207米
ドル）

■
基本的教育と識字率向上に関する補助金：104件
（6,766,604米ド
ル）

■
地域社会の経済発展に関する補助金：154件
（8,613,670米
ドル）

■
環境に関する補助金：59件
（3,676,914米
ドル）

寄付者の声



ケン・ムギシャ
(ウガンダ)

メジャードナー (レベル2)、
遺贈友の会 (レベル4)

「マラリアのないザンビアのためのパートナー」に関わったことは、ムギシャさんにとって人生を変えるほどの経験となりました。200万米ドルのロータリー大規模プログラム補助金の第1回受領者であるこのプログラムは、特に妊婦と子どものマラリア感染数を減らすため、目標の一つであるマラリアの検査と治療へのアクセスを増やしてきました。このプログラムは「パートナーシップの力を示す手本」とムギシャさんは言います。「プログラムを通じて、ロータリーの力強いインパクトと、協力を通じて大きな進歩が可能であることへの信念が強まりました」

ムギシャさんは、思いやりを大切にする家族の中で育ちました。平和、疾病予防と治療、環境に情熱を注いでおり、真の違いを生むプロジェクトを支援したいと考えています。「これらの分野はとても大切だと感じています。平和構築と和解におけるロータリーの取り組みは、健康と環境の持続可能性へのコミットメントと相まって、分断をつなぐ懸け橋となり、永続的な変化を生む力を持っていると信じています。ロータリー財団を支援することで、私とそのソリューションの一部となり、世界的な団結と進歩を後押しできます」



チェン・ミン-ホ
(台湾)

アーチ・克蘭フ・ソサエティ
(財団サークル)

25年以上前にチェンさんがロータリーに入会した理由は、奉仕に対するロータリーのコミットメント、そして志を同じくする多種多様な職業人と知り合いになれる機会でした。「ロータリーには、親睦、個人的・職業的なつながり、社会に貢献する機会など、素晴らしい機会があふれています」とチェンさん。「ロータリーで得ることのできたサポートと同胞意識はとても貴重なものです」

より多くを与えれば与えるほど、自分が受ける恩恵も大きいとチェンさんは信じています。長年、ロータリー財団への寄付がどのように人びとにインスピレーションを与え、「よいこと」の実現につながるかを目にしてきました。「寄付を通じて、愛、希望、幸せを世界と分かち合いながら、ほかの人びとにも同じことを奨励できます。私の寄付は、恵まれない人びとに必要な不可欠なリソース、教育、機会を提供する活動に役立てられるでしょう」



ジェームズ・アンソニー・キャストリー、
サンドラ・キャストリー
(オーストラリア)

アーチ・克蘭フ・ソサエティ (管理委員会サークル)、
遺贈友の会 (レベル5)

ジェームズさんがロータリーに入会したのは、人びと、特に貧しい人びとを助けたいと思ったからです。そう強く感じている彼は、女性たちに縫製の方法を教え、自営業を始めるために必要な機器と研修を提供する国際的なプログラム「SewAid」を設立しました。

「人びとを助ける最善の方法は、新しいスキルを教えること」とジェームズさん。「食糧の寄贈や募金も重要ですが、短期的な支援しかできません。新しいスキルを学ぶための教育と機会を提供することで、人びとを生涯にわたって助けることができます」

ロータリー財団への寄付を通じてこれからも人びとを支援していきたいと考えています。サンドラさんはこう述べます。「ロータリー財団はとても信頼できる団体であり、寄付を賢く活用してくれると信じています。支援を必要とする人びとのためにロータリーができることが増えれば、それだけロータリーが多くの人の目に触れ、入会への関心も高まるでしょう」



インソク・キム、ヨンリョ・チョ
(韓国)

アーチ・克蘭フ・ソサエティ
(管理委員長サークル)

20年以上前にキムさんがロータリアンになったとき、奉仕へのロータリーのコミットメントが自身の考え方と同じであることに気づきました。「ほかの人びと、特に若者への支援に情熱を傾けてきました。私は青少年交換委員長を7年間務めたほか、韓国・台湾の友好委員長も務め、国際的な友好と交流を促進してきました」

ロータリーとの関わりを通じて、クラブの奉仕によってロータリー財団の存在がいかに重要であるかを学びました。「私にとって、寄付と奉仕は実践と行動です」とキムさん。「ロータリーは奉仕団体であり、財団がその活動を資金面で支えています。私の寄付は人びとへの支援に役立てられています。ロータリー財団は、私が自信をもって寄付できる模範的な団体です」

ロータリー財団の父であるアーチ・克蘭フは、かつてこう述べました：「自分のためだけに生きるのではなく、他者に奉仕する喜びのために生きるべきです」。この言葉はキムさんの心に響きます。「この言葉をいつも心に刻んでいます」

2023-24年度 新規およびレベルアップしたAKS会員

アーチ・クラumpf・ソサエティ

管理委員長プラチナサークル

(5,000,000～9,999,999ドルのご寄付)
Ravishankar and Paola Dakoju (インド)

管理委員会プラチナサークル

(2,500,000～4,999,999ドルのご寄付)
Archibald McLelland and Kazuko Flynn (米国)
Dahyabhai S. and Angela J. Patel (米国)
Phillip E. and Geraldine J. Rominger (米国)
匿名 (1名)

財団サークル

(1,000,000～2,499,999ドルのご寄付)
Ming-Ho Chen (台湾)
Nitin and Meena Desai (インド)
Ann and Charles Eisemann (米国)
Judy Huang and Ricardo Lynn (台湾)
Daniel O. Joraanstad and Robert E. Hermann (米国)
Santiago Martin and Leema Rose Martin (インド)
Aziz Memon and Samina Aziz (パキスタン)
Alan Mooers (米国)
Ching-Hua Yen and Shu-Fen Lai (台湾)
匿名 (1名)

管理委員長サークル

(500,000～999,999ドルのご寄付)
Vicente JG.Arbesú and Ma.Enriqueta (Kikis) López (メキシコ)
Rick and Totney Benson (米国)
Herbert G. and Diane Brown (米国)
Chiou-Hai Chang and Liao Li-Yu Chang (台湾)
Arthur S. and Dilma Dover (米国)
Archie Francisco F. and Rozanne C. Gamboa (フィリピン)
John O. Garner (米国)
Bob and Kathy Gravino (米国)
Fauzia and Mohsin Jaffer (米国)
Roger and Lorri Kaufman (米国)
インソク・キム、ヨンリョ・チョ (韓国)
Yun-Chin Liu and Shun-Fa Yang (台湾)
Ashok and Sushila Mahansaria (インド)
Lewis Kern and Fluff E. McLean (米国)
K.P. Nagesh and Uma Nagesh (インド)
Shobana and Ravi Raman (インド)

Rajendra K. and Usha Saboo (インド)
Preston Seu and Donna Shaver (米国)
Jose R. and Rosario Soberano (フィリピン)
Lyn and Alex Stroshin (カナダ)
Gerrit A. and Carolee Terpstra (米国)
Daniel Tung-Hsien Tsai and Lillian Li-Ling Hung (台湾)
Oakley and Dena Van Slyke (米国)
Carl W. and Barbara Virden (米国)
匿名 (4名)

管理委員会サークル

(250,000～499,999ドルのご寄付)
Dave and Susan Amankwah (ガーナ)
David F. Arnn, Sr. and Carol B. Arnn (米国)
Vommina Sathish Babu and Arra Bhanumathi (インド)
Mary and Ivar Berge (米国)
Walter Bock and Lynne Roberts (オーストラリア)
John Chan Sung Tong and Chen Wee Ping (マレーシア)
Shih-Che Chang and Hsio-Hui Huang (台湾)
Gil G. Chua and Grace P. Chua (フィリピン)
Andy and Molly Clark (米国)
Ligia I. Corredor (米国)
Pamela A. and D. Paul Crawford (米国)
Jacques B. and Marjorie Crommelin (米国)
Maria Alice D’Amorim (ブラジル)
Abbie and Mads Engelstoft (米国)
Fanny Fang and Aaron SY Cheng (台湾)
Joseph P. and Martha Ely Goralka (米国)
Georgeanna and Marvin H. Grusing (米国)
Ajay Kumar Gupta and Neera Gupta (インド)
Myeong Ho Ha and Keum-Hee Jang (韓国)
Han Hyun Ki and Kang Mi Young (韓国)
Charlotte Hartmann-Hansen and Tore Hartmann-Hansen (米国)
Mark Ho (台湾)
Mohmed A. and Mahabuba Hoque (バングラデシュ)
Bernard S. and Jane E. Hoyt (米国)
Benison Hsu and Joyce Liou (台湾)
Hu, Hsiu-Long and Hsin, Mei-Hui (台湾)
Shirley S. Hu and Hsiao T. Hsia (米国)
Arthur B. Hunter (米国)
Mahinder K. Jain and Sarita Jain (インド)
神野正博・厚美 (日本)

Cheon Sik Kim and Soon Jeong Yoon (韓国)
Nirmal Jain Kunawat and Asha Kunawat (インド)
Yong Joon Kwon and Gi Nam Han (韓国)
PH Lai and Sally (台湾)
Ki Woon Lee and Yeon Ju Jin (韓国)
Lee Sung-Nan (台湾)
Lee Ji Won and Jeon Yoon Hee (韓国)
Nancy and Robert E. Long (米国)
Chang-An Lu and Li-Ling Chiu (台湾)
Darrel and Edith Martin (カナダ)
松田英郎・尚美 (日本)
松岡通夫・明子 (日本)
Jimmie A. Mauldin and Mary W. Mauldin (米国)
Henry Z. McCrary and Melanie B. McCrary (米国)
宮崎陽市郎・永子 (日本)
Krishnan G. Nair and Rajashree V. Nair (インド)
Seunggi Paik and Myung Chang (韓国)
Sang Hyeon Park and Kyung Sook Hong (韓国)
Steve and Gayle Picha (米国)
Jhansi Premanand (インド)
Michael Procter (カナダ)
S. Gautami and Venu S. Rao (米国)
John E. Robertson and Susan E. “Honey” Robertson (バハマ)
Brian and Gwen Rothwell (カナダ)
Pablo Rafael and Alejandra Ruiz (メキシコ)
Rosalino D. Sanchez Jr. and Luz Leonila T. Sanchez (フィリピン)
Greg and Debbie Scheller (米国)
Christopher H. Schneider and Ute A. Schneider (米国)
Mark G. Scolnick and Irma Cole (米国)
Nagin and Priya Shah (米国)
Young Jin Shin and Kyung Sim Lee (韓国)
Michael and Donna Steffenson (米国)
Lalitha and Narasimhan Subramanian (インド)
James and Janice Thompson (カナダ)
Dharmprakash Tripathi and Anjali Tripathi (インド)
Hsin-Chuan Tsai and Kenichi Minoda (台湾)
David J. and Linda K. Underdown (米国)
Asha Venugopal and Venugopal B.N. (インド)
Iain Richard Wakefield (ニュージーランド)
Pam and Terry Weaver (米国)
Tom and Yvonne Wolf (シンガポール)
Tony Yang and Nina Chiang (台湾)
Stela Yang (Yi Lan) and Spencer Lee (台湾)
吉原久司・美和子 (日本)
Oknam Yu (米国)
匿名 (27名)

名誉サークル会員

(既存のソサエティ会員による25万ドル以上のご寄付によって認証された方)
Yin-Kuei Chen (台湾)
William L. Wilson (米国)
匿名 (2名)

新規レガシー・ソサ
エティ会員

レガシー・ ソサエティ

ロータリー財団管理委員会は、財団への100万米ドル以上の寄付を誓約した人を称えることを目的としたレガシー・ソサエティの導入を全会一致で承認しました。管理委員会は、個人の遺産計画にロータリーを含め、財団支援の模範を示していただいた方々に感謝いたします。

Paul M. Hanysz (米国)
Ted W. Hussar and Susan Vickery Hussar (米国)
Suzanne Johnston (米国)
Robert F L and Joan Estelle MacDonald (米国)
Stew Martin (米国)
Christine Rendell and Brian Carnahan (カナダ)
Fedor Rubatto S. and María Cristina Urioste (ペルー)
Nita N. Sell (米国)
Howard Svigals (米国)
Jonathan T. Ward (米国)
Ronald Floyd Winecoff and Billi Joyce Black (米国)
匿名 (2名)

注目すべきサポーターと協力団体

2023-24年度、以下の企業と慈善団体からロータリー財団に10万米ドル以上のご寄付をお寄せいただきました。ご寄付は、変化をもたらすために会員が世界中で行っている活動に役立てられています：

- Belanna Trust
- Coal India Ltd.
- Eleanor Crook Foundation
- Gift of Life International
- Goldman Sachs Gives
- Inflow Technologies Pvt.Ltd.
- Otto and Fran Walter Foundation
- PNB Gilts Ltd.
- Shri Sai Lakshmi Trust

重要な目的を前進させ、最大限のインパクトをもたらし、会員の積極的参加を引き出し、地域社会のニーズに取り組むため、国際ロータリーは、ロータリーの重点分野と奉仕へのコミットメントを支援する以下の団体と協力しています。ロータリー会員は、これらの団体との提携、専門知識、リソース、ネットワークを活かすことで、長期的で好ましい変化をもたらす有意義なプロジェクトを実施できます。

- アショカ
- ビル&メリンダ・ゲイツ財団*
- ジョージメイソン大学カータースクール
- ハビタット・フォー・ヒューマニティ・インターナショナル
- 経済平和研究所
- Gaviワクチンアライアンス*

- 平和部隊
- The Power of Nutrition
- ロータリー平和センター提携大学：
 - バーチェシェヒル大学
 - デューク大学およびノースカロライナ大学チャペルヒル校
 - 国際基督教大学
 - マケレレ大学
 - ブラッドフォード大学
 - クイーンズランド大学
 - ウプサラ大学
- シェルターボックス
- トーストマスターズインターナショナル
- UNICEF (国連児童基金) *
- 国連
- 国連環境計画
- 米国国際開発庁
- 米国疾病対策センター (CDC) *
- 世界保健機関 (WHO) *
- ワールドビジョン

「*」がついている団体は世界ポリオ根絶推進活動 (GPEI) のメンバーです。

ソーラーパネルの利用格差を減らす

ソーラーパネルの設置費用は全体的に低下している一方、アクセスは依然として平等ではありません。低所得世帯にとっては、高額な前払い費、融資の確保が困難であること、税額控除がないことにより、再生可能エネルギーの利用は敷居が高くなっています。

5.4キロワットの太陽光発電システムを導入することで、地球の保全に貢献できるだけでなく (3,000本の植樹に匹敵)、月額150米ドル (約2万2千円) の電気代を節約できます。この節約によって、貧困の連鎖を断ち切り、家族が衣服、食料、教育などのニーズを満たすことが可能となります。

ロータリー会員は、人びとの生活条件の改善のために70カ国以上で活動するグローバルな非営利団体ハビタット・フォー・ヒューマニティ・インターナショナルとのパートナーシップを通じて、適切な住宅を手頃な価格で入手しやすくし、太陽エネルギー利用の格差を縮めようとしています。

環境の持続可能性のためのロータリー行動グループは、クラブや地元ハビタットに助言した経験を基に、低所得世帯による太陽エ

ネルギーの利用をクラブが支援するための手引きを複数の言語で作成しました。この手引きには、税額控除と還付、助成金の機会、資金調達の選択肢に関する情報が記載されています。

グループのメンバーは、再生可能エネルギーの利用格差を減らすため、米国、カナダ、コートジボワールなどの地域でソーラーパネルプロジェクトを推し進めています。 ■

ハビタット・フォー・ヒューマニティが建てた家の屋根にソーラーパネルを設置する作業員 (米国ノースカロライナ州ヒルズボロ)

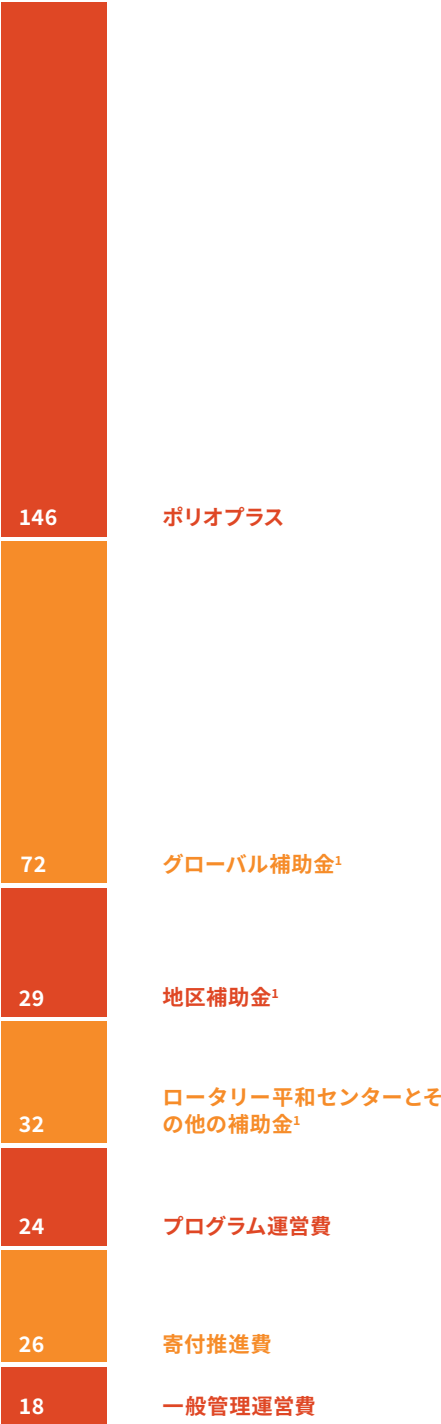


ほぼすべての国で活動するロータリーは、慎重に資金管理を行っています。

財務

ロータリー財団の支出：
3億4,700万米ドル

プログラム補助金と運営費 87%



国際ロータリー収支報告

2023会計年度と2024会計年度（6月期）（単位：千米ドル）

会計年度累計	2023年6月	2024年6月
収入		
人頭分担金	\$84,427	\$88,303
投資純益	1,248	4,383
支援業務とその他の活動	34,930	36,968
収入合計	\$120,605	\$129,654
支出		
運営費	87,820	93,796
支援業務とその他の活動	32,706	33,337
戦略的準備金	2,421	1,252
支出合計	\$122,947	\$128,385
為替差益（損）	\$(464)	\$(3,025)
純資産の増加（減少）	\$(2,806)	\$(1,756)
純資産（期首）	\$159,256	\$156,450
純資産（期末）	\$156,450	\$154,694

ロータリー財団収支報告

2023会計年度と2024会計年度（6月期）（単位：千米ドル）

会計年度累計	2023年6月	2024年6月
収入		
寄付 ²	\$366,503	\$351,664
投資純益	58,078	110,356
金利分割合意とその他の活動（純額）	2,497	5,110
収入合計	\$427,078	\$467,130
支出		
プログラム補助金	\$278,784	\$278,705
プログラム運営費	21,919	23,830
寄付推進費	25,489	26,612
一般管理運営費	17,355	18,076
支出合計	\$343,547	\$347,223
為替差益（損）	\$(4,025)	\$(7,527)
未実現寄付のための予備費	\$(1,543)	\$(1,927)
純資産の増加（減少）	\$77,963	\$110,453
純資産（期首）	\$1,255,570	\$1,333,533
純資産（期末）	\$1,333,533	\$1,443,986

1. 返金その他調整後
2. 米国会計基準に基づき、ロータリー財団は誓約と他基金（ポリオプラスなど）への繰入を寄付として報告していません（財団のほかのレポートとは異なる場合があります）。